

# 「神の智恵」

～知ることから智ることへ～

ヨハネ 1:14 ~ 16、コロサイ 1:6 ~ 12

私たちは、神さまが完璧に造られたものを、知らずに生きていることが多いです。たとえば、太陽と地球の関係です。少しでもずれていれば地球が暑すぎたり寒すぎたりしますが、ちょうど良いベストな位置で造られています。これを人間が真似て作っても、何かあって暴走した時に止めることすらできません。このように完璧に創造された世界で生きていることを自分たちは知っているのでしょうか？知らないということは、恐ろしいことです。知らないで生きると私たちは歩む道を間違えてしまいます。知らないがゆえにその世界から何かを見失ってしまっていたら、今まで生きてきた未知の世界が恐れに変わります。ですからこの朝、自分たちに知るべきことがあるのなら、それを知ることができる人生を歩むことを選びましょう。たとえば、日本人は昔から餅を7日間食べる風習がありますが、それがどこから来ているのか知っていますか？諸説ありますが、イスラエルの風習が伝わったという説もあります。どこの風習が伝わったかというよりも、どうして私たちがその風習を行っているのかを考えなければいけません。それを考えたことがありますか？どうしてこれらを疑問に思わないのでしょうか。私たちは、「なぜ？」と思う心を失いましたので「まあいいか」と考えなくなったのです。人間のあり方を失ったのです。しかし教会に来ると、週に一度考える時間が与えられます。ただし、当たり前だと思っていることが分かっていないと、生き方を損じることになります。人間が動物のように本能の赴くままに考えることなく動くことは恐ろしいことです。それぞれの物事には何かしら理由があります。よく考えるとか何が分かるのです。それは「自分にはコントロールできない」ことです。自分の限界を知り、弱さを認め、自分の問題を理解し変わろうとするのです。今まで思っていた自分がそうではないことに気づくことができるのです。大きな智恵を得ることができるのです。

## ■ 神の智恵。知ることから智ることへ

この「智」には神の深い意味を知ることだそうです。私たちは自分が無知であり明日を知らない者だと知っています。だから知ることを願います。知ることによって明日何が起ころうとも乗り越える知識になると信じているからです。神さまはこんな私たちのために聖書を与えてくれました。聖書には生き様が書かれています。私たちはその生き様を知ることによって知ることがたくさんあります。知らないとは言えません！頭で知ることだけではない「智」ることへと進みたいです。智って物事に向き合うと葛藤が生じます。失敗だってします。しかし私たちクリスチャンには神さまがいます。神さまは、すでに私たちの人生が豊かになるようにあらかじめ用意してくださっています。智って行動しないと葛藤も生じないし失敗もしません。ただ知っているだけで終わってしまいます。神さまと自分との関係を智って今一度「智」ること学びましょう。

## ■ 人間の安全保障・知恵 (ソフィア・フローネーシス・シュネシス)

「すべての人々が、自由に、かつ尊厳を持って、貧困と絶望から解放されて生きる権利」を強調するとともに、「すべての個人、特に脆弱な人々が、すべての権利を享受し、人間としての潜在力を十分に発展させるために、平等な機会を持ち、恐怖からの自由と欠乏からの自由を得る権利を有していること」と国連が定義していますが、聖書に書かれていることと一緒です。これらを行うためには知恵(ソフィア)が必要です。「ソフィア」σφίηは、原理的、究極的なものに関する完全な知恵を意味します。究極にして永遠なるものを知る知恵です。さらに聖書にはフローネーシスという言葉も出てきます。「フローネーシス」φρόνησιςは、思慮深き、分別原理的な知恵を意味する「ソフィア」に対して、より実際的な知恵、すなわち理解する知恵、日常生活の実際的な問題を処理できる知恵、ある状況の中においてなすべきこととなすべきではないことを知る実際的な知恵を意味します。これは永遠の存在である知恵を知った人たち…すなわち神さま無しでは自分が弱く何もできない存在であると知った人たちが永遠の存在である神さまとともに生きていくと決断し、現実的な生活の中

で行おうとするのが知恵の発展型でそれが「智」なのです。私たちは知るだけで知ったことをほったらかしにするのではなく、神さまの前で知識を智恵に変えなければいけません。知識と智恵は違います。知識では解決できないことも智恵によっては解決することができるのです。この智恵を阻害するのは自己中心の罪です。生まれながらにして持っているこの罪を自覚してもう一度回復しましょう。

## ■ 愛と信仰により真理のこぼに生きることである

智恵に生きるとは、愛と信仰により真理のこぼに生きることでありと聖書は伝えています。「愛と信仰により」がある理由は、教会には、こうあるべきだと言う「真理派」、救世ばいと言う「愛派」が存在してしまうからです。この両方があるってひとつなのです。この世はどちらか片方が生きています。裁く人と裁かれる人、立場の上下…。しかし最も重要なのは愛と信仰、つまり信じようとする心が大切なのです。人が誰かとかかわる時には疑ってかかるより信じてかかわる方が多いです。この信じようとする心の根底に愛が存在するのです。聖書でなぜ愛が完全であり絶えることがないか書かれているかということ、愛には絶えず赦すことがついているからです。愛することと信じようとする心の中に本当の真実の思いがお互いの心に芽生えるのです。人は裏切ることがありますが、裏切りたくないと言う思いも芽生えてきます。私たちが神さまに願うことは、愛し赦しそしてそれを信じようとする心によって人が変えられていくことを知ることが大切です。

## ■ 弱さを知り認めることである

自分の弱さを知っていますか？自分が弱いものであることを知り認めた時、誰かの弱さを知ることができます。自分の弱さを知っていれば隣人を裁く必要がなくなります。自分の弱さを知るといことは、それを受け入れるということです。そして、弱さを受け入れて初めて自分の内側に強さをもたらしやす方がおられるのを知ります。神さまは私たちの人生を変えてくださるのです。

## ■ 自分の目を正しく数える

詩篇 90 篇 1 ~ 12 節を読みましょう。最後の 12 節に「私たちに自分の目を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください」とあります。私たちが日々生きる中で大切なことは「自分のいのちの目を正しく数えること」だと言われています。これは死をきちんと乗り越えた人だけが出来ることです。自分が終わりに向かって生きていることをきちんと理解して日々を生きることになります。この方法が、1 節に書かれています。人間の価値観では死は恐れであり悲しみです。死を迎えた時に、恐れて不安になるのかこれが終着と理解するのか、この二つの選択があります。クリスチャンの生き様は、次の人にバトンを渡せるように生きる人生を送ることなのです。今、自分の人生が終わったらどうなるのか…正しく目を数えようとして。自分の人生を誰かに引き継ぐことが出来ますか？もしまだ引き継ぎそうにないならば、それは智恵ではなく知識で人生を送っていたのかも知れません。死があることは知ってはいたけれど現実にそれが起こると受け入れていなかったのかもしれない。私たちの人生が智恵に満たされているのだとすれば永遠を理解することが出来るので死と言うものに変化が起きます。そしてその死をもっておられる方が存在することも知ります。私たちの人生を変えるものは「知ること」です。あなたの目を正しく数えよと言われたその背後には私たちが本当に知らなければならないことがあると言うメッセージでした。神さまは今一度私の前で考えよと言われていました。静まり、神さまの前で自分の智るべきことを考えましょう。

(要約者:行司 佳世)

(2019年1月1日)